

平成27年3月期 決算ハイライト



平成27年3月期 決算の概要（総括）

- 経常収益は 63,162百万円（前期比+7,753百万円、3期ぶりの増収）
- 経常利益は 17,155百万円（前期比+2,368百万円、3期連続の増益）
- 当期純利益は 7,459百万円（前期比+ 205百万円、3期連続の増益）
- 全体としては、7期ぶりの増収増益。
- 単体自己資本比率（バーゼルⅢ、国内基準）は 11.18%となりました。
- 金融再生法開示債権が総与信に占める割合（不良債権比率）は前期末比 $\Delta 0.82\%$ の 3.68%となりました。

(1) 損益の概要

【単体】

（単位:百万円）

	26年3月期	27年3月期	増減額	増減率
経常収益	55,409	63,162	7,753	13.9%
経常利益	14,787	17,155	2,368	16.0%
当期純利益	7,254	7,459	205	2.8%
コア業務純益	16,606	16,856	250	1.5%

【連結】

（単位:百万円）

	26年3月期	27年3月期	増減額	増減率
経常収益	66,573	74,109	7,536	11.3%
経常利益	16,798	18,941	2,143	12.7%
当期純利益	7,855	7,989	134	1.7%

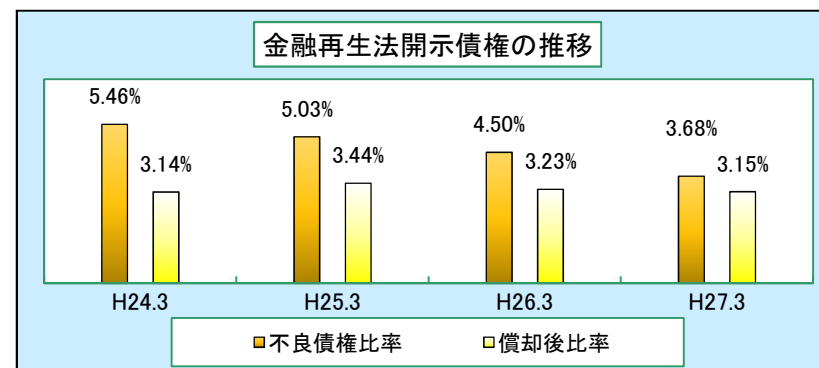
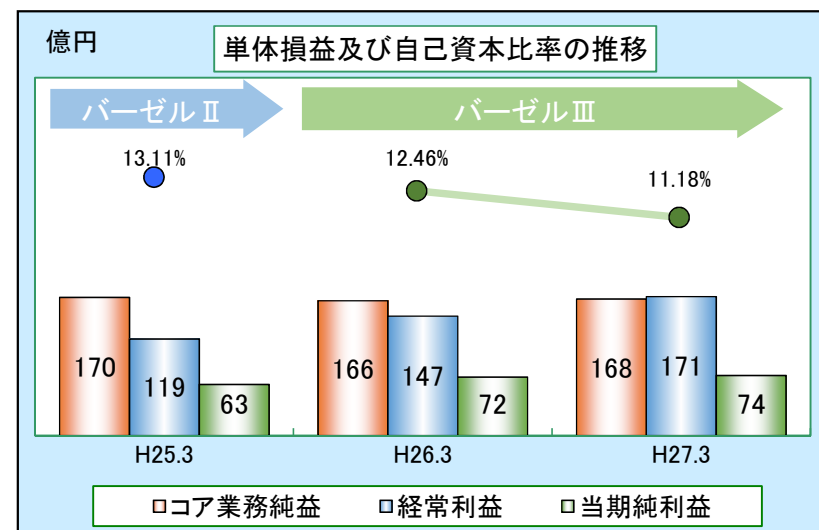
(2) 自己資本比率【単体】

	26年3月末	27年3月末	増減
単体自己資本比率	12.46%	11.18%	$\Delta 1.28\%$

(3) 金融再生法開示債権【単体】

（単位:億円）

	26年3月末	27年3月末	増減
金融再生法開示債権	1,086	915	$\Delta 171$
（不良債権比率）	（4.50%）	（3.68%）	（ $\Delta 0.82\%$ ）



平成27年3月期 決算の概要（単体）



- 業務粗利益（除く債券関係損益） 47,162百万円（前期比 + 778百万円）
- 経費 30,306百万円（前期比 + 528百万円）
- コア業務純益 16,856百万円（前期比 + 250百万円）
- 経常利益 17,155百万円（前期比 + 2,368百万円）
- 当期純利益 7,459百万円（前期比 + 205百万円）

（百万円）

		26年3月期	27年3月期	増 減
業 務 粗 利 益		45,925	52,403	6,478
（除く債券関係損益）		(46,384)	(47,162)	(778)
資 金 利 益		40,011	40,887	876
役務取引等利益		6,114	5,957	△ 157
その他業務利益		△ 200	5,558	5,758
うち債券関係損益		△ 459	5,240	5,699
経 費	(△)	29,778	30,306	528
コ ア 業 務 純 益		16,606	16,856	250
一般貸倒引当金繰入額 ①	(△)	△ 252	2,871	3,123
業 務 純 益		16,399	19,225	2,826
臨 時 損 益		△ 1,611	△ 2,070	△ 459
うち株式関係損益		806	2,841	2,035
うち不良債権処理額 ②	(△)	4,019	5,995	1,976
うち償却債権取立益 ③		2,147	1,216	△ 931
経 常 利 益		14,787	17,155	2,368
特 別 損 益		△ 1,312	△ 2,764	△ 1,452
当 期 純 利 益		7,254	7,459	205
実質不良債権処理額 ①+②-③		1,620	7,651	6,031

業務粗利益（除く債券関係損益） 前期比+ 778百万円
 ・ 有価証券運用強化に伴う利息配当収入などによる資金利益の増加を主因として、前期比プラスとなった。

経 費 前期比+ 528百万円
 ・ 生産性の向上に努め人件費は前期比減少したが、設備投資に係る費用増加等により、経費全体としては前期比プラスとなった。

コア業務純益 前期比+ 250百万円
 ・ 資金利益の増加を主因に前期比プラスとなった。

経常利益 前期比+ 2,368百万円
 ・ 有価証券関係損益の増加により、前期比プラスとなった。

有価証券関係損益 前期比+ 7,734百万円
 ・ 債券関係損益 前期比+ 5,699百万円
 ・ 株式関係損益 前期比+ 2,035百万円

実質不良債権処理額 前期比+ 6,031百万円
 ・ 不良債権処理額は、引当処理の一部見直しや個別引当の増加等により前期比増加となった。

特 別 損 益 前期比△ 1,452百万円
 ・ 不動産の減損・処分費用等が前期比増加した。

当 期 純 利 益 前期比+ 205百万円
 ・ 特別損失が増加したが、経常利益が大きく増加したことにより、前期比プラスとなった。

配 当
 ・ 安定配当相当額6円に業績連動配当1円を加えて、年間7円。

貸出金

- 貸出金残高は、北陸地区で増加し、前期末比+45億円の2兆3,631億円となりました。
- 貸出金の内訳では、住宅ローンが前期末比526億円増加、その他ローン（カードローン、マイクロローン等）が前期末比45億円増加となり、ともに順調に推移しております。

○貸出金の地域別内訳（残高）

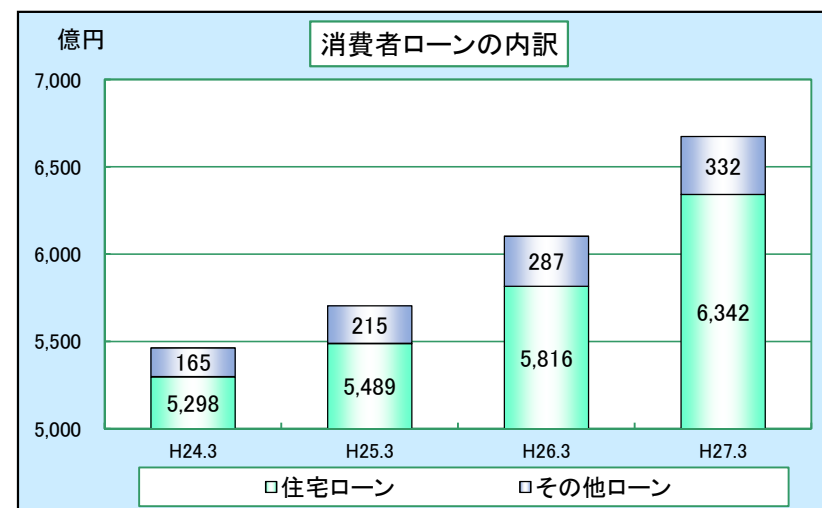
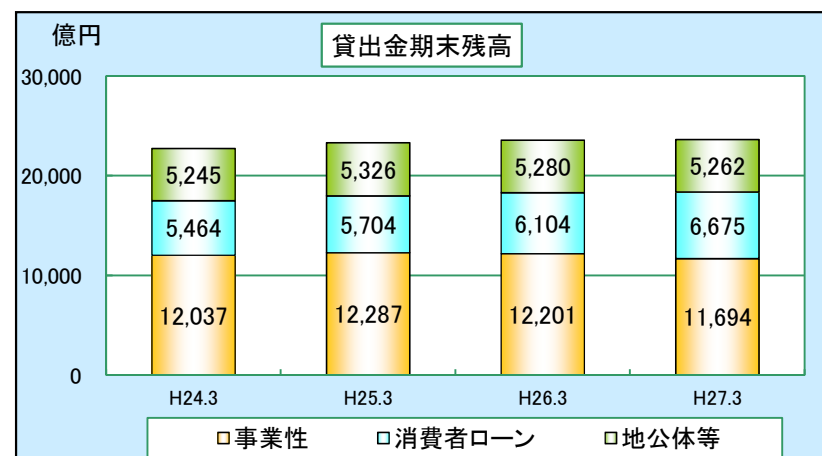
	H24.3末	H25.3末	H26.3末	H27.3末	増減 H26.3末比
北陸地区	19,386	19,728	20,042	20,491	449
その他	3,360	3,590	3,544	3,140	△404
貸出金計	22,747	23,319	23,586	23,631	45

○貸出金の内訳（残高）

	H24.3末	H25.3末	H26.3末	H27.3末	増減 H26.3末比
事業性貸出	12,037	12,287	12,201	11,694	△507
消費者ローン	5,464	5,704	6,104	6,675	571
うち住宅ローン	5,298	5,489	5,816	6,342	526
うちその他ローン	165	215	287	332	45
地公体等	5,245	5,326	5,280	5,262	△18

（参考）貸出金平均残高の推移

	H24.3期	H25.3期	H26.3期	H27.3期	増減 H26.3期比
貸出金計	21,843	22,468	23,138	23,599	461
うち事業性貸出	11,028	11,230	11,695	11,778	83



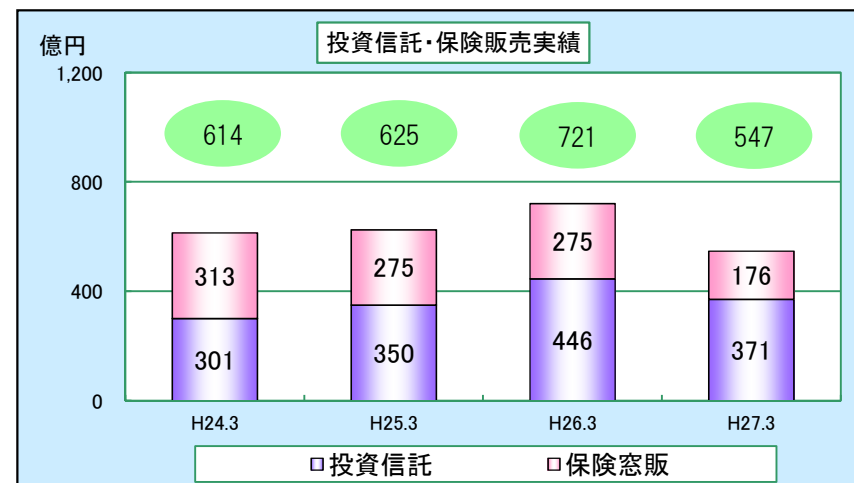
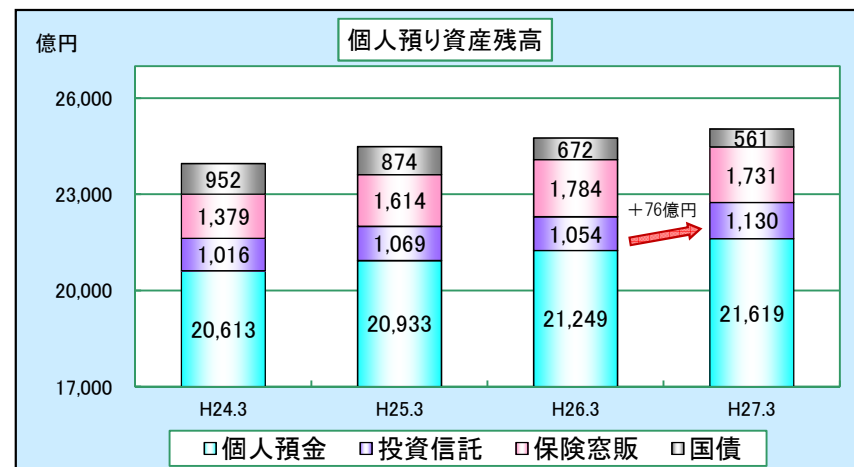
預金・預り資産

- 預金は、一般法人預金は減少しましたが、個人預金が増加し前期末比 307億円増加しました。
- 個人預り資産では、中長期投資のご提案を勧めるとともに、顧客の裾野の拡大を図っており、投資信託預り残高が前期末比 76 億円増加しました。

○預金残高

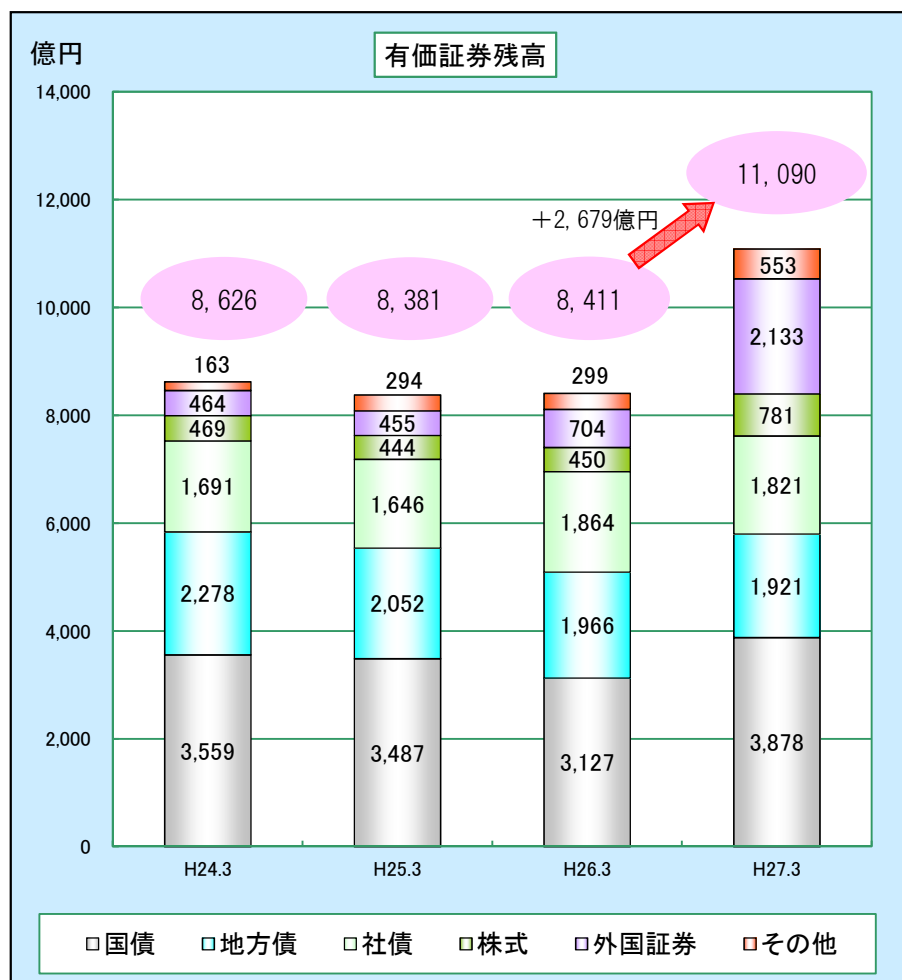


○個人預り資産残高・販売状況



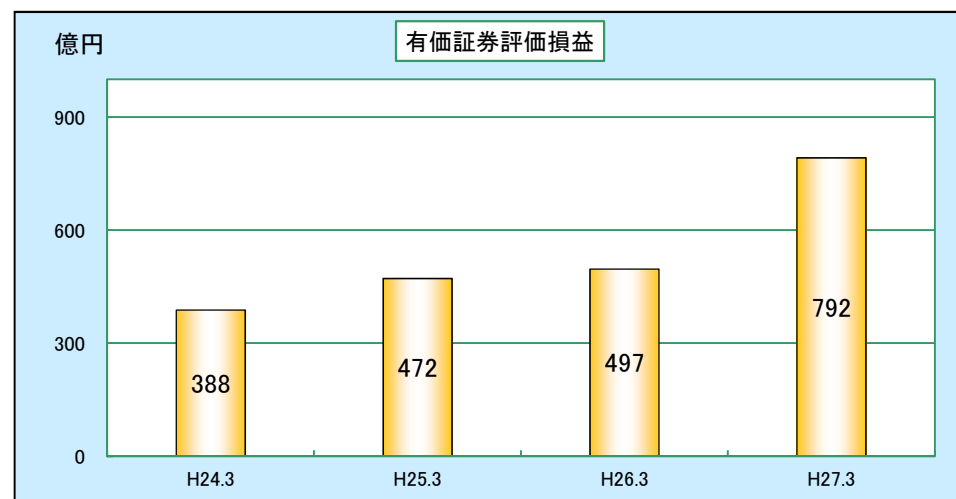
- 有価証券残高は、株式や外国証券等が増加し、前期末比 +2,679億円の1兆1,090億円となりました。
- 有価証券の評価損益は債券は減少しましたが、株式と投資信託等その他が増加し、全体では前期末比 295億円増加の792億円となりました。

○有価証券残高(取得原価ベース)



○有価証券の評価損益

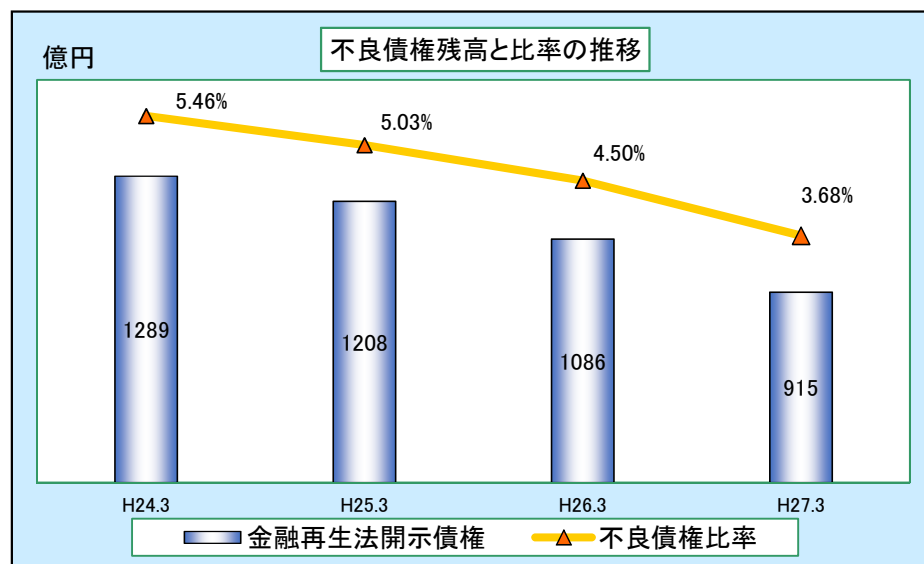
	H24.3末	H25.3末	H26.3末	H27.3末	増減 H26.3末比
評価損益合計	388	472	497	792	295
株式	224	278	349	577	228
債券	157	184	144	133	△11
その他	6	8	4	81	77



不良債権残高／自己資本比率の状況

- 不良債権比率は不良債権処理を着実に進めたことから、前期末比0.82%低下の3.68%となりました。
- 自己資本比率（バーゼルⅢ、国内基準）は、単体は11.18%、連結は11.72%となりました。

○不良債権残高の状況

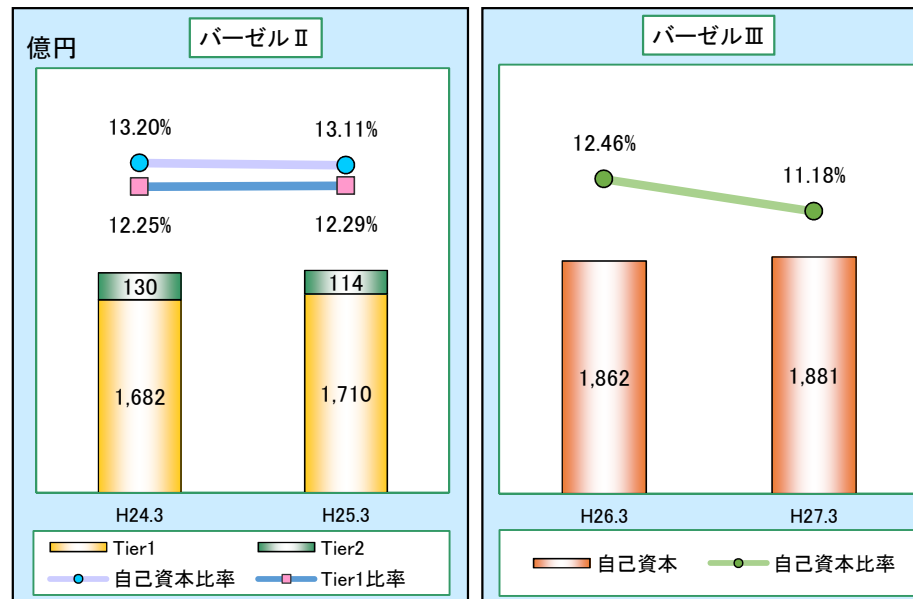


(億円)

	H24.3末	H25.3末	H26.3末	H27.3末	増減 H26.3末比
破産更生債権等※	734	538	444	270	△174
危険債権	493	662	628	634	6
要管理債権	61	7	14	11	△3
計	1,289	1,208	1,086	915	△171
不良債権比率	5.46%	5.03%	4.50%	3.68%	△0.82%
部分直接償却後 不良債権比率	3.14%	3.44%	3.23%	3.15%	△0.08%

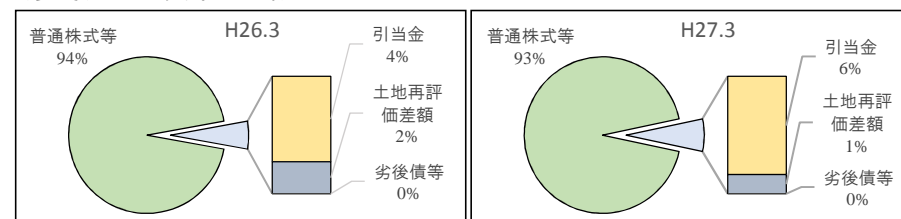
※破産更生債権及びこれらに準ずる債権

○自己資本残高と比率の推移（単体）



バーゼルⅢ	H26.3末	H27.3末	増減
単体自己資本比率	12.46%	11.18%	△1.28%
連結自己資本比率	13.06%	11.72%	△1.34%

(参考) 自己資本の内訳



平成28年3月期業績予想

- ・ 経常収益は53,000百万円（前期比△10,162百万円）を予想しております。
- ・ コア業務純益は16,500百万円（前期比△356百万円）を予想しております。
- ・ 経常利益は15,000百万円（前期比△2,155百万円）を予想しております。
- ・ 当期純利益は9,000百万円（前期比+1,541百万円）を予想しております。

○平成28年3月期業績予想

【単体】 （通期）

	（通期）		（中間期）		（百万円）
	27年3月期	28年3月期	27年3月期	28年3月期	
経常収益	63,162	53,000	経常収益	29,980	26,500
経常利益	17,155	15,000	経常利益	11,772	7,500
当期純利益	7,459	9,000	中間純利益	4,999	4,500
コア業務純益	16,856	16,500	コア業務純益	8,590	8,300

【連結】 （通期）

	（通期）		（中間期）		（百万円）
	27年3月期	28年3月期	27年3月期	28年3月期	
経常収益	74,109	63,500	経常収益	35,491	32,000
経常利益	18,941	16,500	経常利益	12,674	8,300
当期純利益※	7,989	10,000	中間純利益※	5,227	5,000

※28年3月期の予想は親会社株主に帰属する当期純利益を表示

1株当たり配当金

年間	うち中間	うち期末
8円00銭	4円00銭	4円00銭

経常収益

- ・ 有価証券関係収益の減少予想などを考慮し、前期比減少を予想。

コア業務純益

- ・ 資金利益は減少する見込みだが、預金保険料率の引下げが見込まれるなど、経費の減少を予想し、前年度並みの水準。

経常利益

- ・ 有価証券関係損益の減少を見込み、前期比減少を予想。
- ・ 不良債権処理費用予想 通期2,500百万円

当期純利益

- ・ 経常利益は減少するが、特別損益や税金等を考慮して、前期を上回る水準を予想。

配当

- ・ 配当は安定配当に加え、配当性向25%~30%を目処とする業績連動型配当の考え方に基づき実施する。
- ・ 年間1株当たり配当金は安定配当相当額6円に業績連動配当2円を合わせて8円を予想。（中間配当4円、期末配当4円）